

付録③ 3年生ゼミの歩み

| | |
|------------|--|
| 2020年4月 | <ul style="list-style-type: none"> ● まず、個別面談で佐々木先生との初顔合わせを行った。コロナ禍により zoom での顔合わせだったが、緊張しながらもなぜ佐々木ゼミを希望したかなどについて話した。 ● 次に、他のメンバーとの初顔合わせを行い、趣味や自分の得意科目など自己紹介した。そこで、みんな英語が苦手なことが分かった。また、データ分析についての勉強も開始した。 |
| 2020年5月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 因果推論の基礎についての学習が始まり、『「原因と結果」の経済学 データから真実を見抜く思考法』（中室・津川，ダイヤモンド社）の p.36~76 についてパート割りをを行い、担当パートについて PowerPoint を使って報告スライドを作成して発表した。 <p>① P.36-50 佐々木（真） ② P.51-65 安藤 ③ P.66-76 松永</p> <p>教科書： https://www.diamond.co.jp/book/9784478039472.html</p> |
| 2020年6, 7月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 『計量経済学 15 講』（小巻・山澤，新世社）についての事前学習が始まった。具体的には、リーダーを決めて、リーダーが指定された範囲のパート割りを主導して行った。その後、期限まで PowerPoint を作成しリーダーがまとめて提出し、授業時間に発表した。 <p>第2講「分析に用いるデータの信頼性を考える」 第4講「データ間の関係」 第5講「回帰分析とは何か」 第6講「推定結果の評価：Excel の推定結果表の見方」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● また、実際に「通勤時間と睡眠時間」に関するデータを集めて、Excel を使って実証分析を行った。 <p>教科書： https://www.saiensu.co.jp/search/?isbn=978-4-88384-274-2&y=2018</p> |
| 2020年8月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちの振り返りのために教科書の内容を解説する動画を作成した。 <p>第2講「分析に用いるデータの信頼性を考える」 安藤</p> |

| | |
|------------|--|
| | <p>第5講「回帰分析とは何か」 松永</p> <p>第6講「推定結果の評価：Excelの推定結果表の見方」 佐々木(真)</p> |
| 2020年9～11月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちの研究の参考にするために、行動経済学の実験論文を精読した。 <ol style="list-style-type: none"> 1本目「奨学金過剰受給の解消に向けた行動経済学的アプローチ」 2本目「豪雨災害時の早期避難促進ナッジ」 <p>論文：</p> <p>1本目 https://www.jstage.jst.go.jp/article/jbef/13/0/13_1/_article/-char/ja/</p> <p>2本目 https://www.jstage.jst.go.jp/article/jbef/13/0/13_71/_article/-char/ja/</p> |
| 2020年12月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 3年生の研究テーマを決めるにあたって、各自が興味関心のある社会課題について調べて、報告した。結果として、フェイク・ニュースやネット炎上をテーマとすることに決まった。 <p>松永：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目「フェイク情報と認識」 2回目「ゲームが与える心理的影響」 <p>佐々木(真)：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目「コロナ禍による大学の学費」 2回目「SNSによる間違った正義感」 <p>安藤：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目「インターネット・サブスクリプション普及によるCDの売り上げの減少」 2回目「年金制度崩壊を危惧したNISAの推奨」 |
| 2021年1～3月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 参考文献として、日本語の書籍『ネット炎上の研究』(山口真一, 勁草書房)を松永が精読し、PowerPointにまとめて全体に共有した。 ● 佐々木(真)と安藤は、日本のネット炎上の事例について収集して、書籍『ネット炎上の研究』の分類分けに事例を当てはめて整理した。 <p>教科書： https://www.keisoshobo.co.jp/book/b220024.html</p> |

| | |
|-----------|---|
| 2021年4月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 参考文献として、国際学術雑誌 Nature に掲載された「Shifting attention to accuracy can reduce misinformation online」 [Pennycook et al.,2021] を翻訳ソフトなどを使って精読した。 Study1,2 佐々木（真） Study3,4 松永 Study5 安藤 学術論文： https://www.nature.com/articles/s41586-021-03344-2 |
| 2021年5月 | <ul style="list-style-type: none"> ● アメリカの研究は、民主党や共産党などの党派性のトピックで行われたもので、日本の学生を対象にする我々の研究には合わないだろうと考えた。当時の日本は、新型コロナ・ワクチンの一般向け接種が始まる前の時期で、ワクチンに関するフェイク・ニュースが多く流布していた。そのため、ワクチン賛成派・反対派という観点から研究を行うことにした。研究のためのアンケート調査票を作成するにあたって、松永がワクチンの偽のニュースについて調べ、安藤が正しいニュースについて調べた。佐々木（真）は、Word を使ってアンケート調査票を完成させた。 |
| 2021年6月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 作成したアンケート調査票をまず身近な家族や友人などに見せて回答してもらい、感想を下に修正した。その後、東北学院大学の一部の1年生・2年生にも回答してもらって、さらに修正を施して完成させた。本番の調査では、3年生以上向けの授業である「行動経済学」「情報経済論」のウェブ掲示板に依頼文を掲示してもらって、回答参加を募集した。 |
| 2021年7月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 松永と佐々木（真）が収集したデータを整理して、Excel を使って統計分析を行った。その結果を使って、安藤が主担当になって速報となるレポートを執筆した。 |
| 2021年8、9月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 佐々木（真）が主担当となり、行動経済学会の学生ポスター部門で発表するために予稿となる論文を執筆して、応募した。「要約」を佐々木（真）・安藤、「はじめに」を安藤、「調査概要」を佐々木（真）、「結果」を松永、「まとめ」を安藤が担当した。 |
| 2021年10月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 松永が主担当となり、東北学院大学の学生懸賞論文向けにフル・ペーパーとなる論文を執筆して、応募した。各節の担当は行動経済学の予稿と同じである。 |
| 2021年11月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 佐々木（真）が主担当となり、行動経済学会の発表向けに説明動画を作成した。選考の結果、「奨励賞」を受賞することがで |

| | |
|------------|--|
| | きた。 |
| 2021年12～2月 | <ul style="list-style-type: none">● 安藤が主担当となり、振り返りのために相互インタビューの記事を作成した。● 松永は本報告書の編集を担当した。 |